

# 「つなげて考えられる力の育成」

～ 新聞を使った教科連携授業と新聞を自分の将来に生かす視点をもつ取り組み ～

新潟県立中条高等学校

## 1 N I E実践のねらい

当校は、普通科の学びとともに、地域連携をとおして「学びを社会で活用する力」を身につけ、主体的に社会貢献できる人材を育成することをコンセプトとしている。昨年度は、主にその核となる地域学習の補完に、N I Eの活動をつなげる姿勢で行ってきた。地域に関する新聞記事に多く触れることで、地域に関する知識のインプットだけでなく、地域に関心をもち、新聞に親しむことができた。またイメージマップにまとめることで、読解力や思考力を養い、主体的に学びを社会で活用する力につなげることができた。

2年次となる今年度は、さらに生徒が主体的に新聞に触れる機会を増やし、さまざまな情報を読み取り、集めた情報を整理して伝えるなどアウトプットする実践を通して、本校で力を入れている探究学習で必要な問題解決力を養うことを目指し、実践を行う。

探究学習を行ううえで、さまざまな視点から物事をとらえることは重要である。教科と教科、地域と学び、世の中の出来事と自分の将来などを、別々の事象としてではなく、その関係性に気づいたり見つけること、つまりつなげて考えることで、広い視野で物事をとらえることができる。N I E活動をそのきっかけとしたい。

## 2 本年度実践の概要

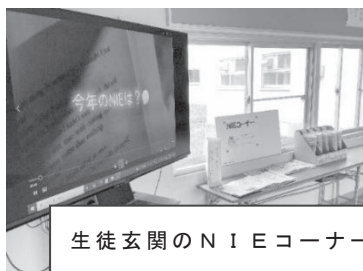
### (1) 新聞活用の環境づくり

R6年度：生徒玄関に、数日分の新聞を置いたN I Eコーナーを設置。

誰でも新聞に触れることができ、またN I Eタイムに使用した記事を使った動画を流し、新聞を意識する機会を増やした。

R7年度：各教室前廊下にN I Eコーナーを設置。

生徒玄関のN I Eコーナーに加え、昨年度は図書室へ移動していた新聞を、各教室前のN I Eコーナーに移動して保管し、授業やN I E学習で、生徒それぞれが新聞を手にとって、新聞を読んだり、記事を選んだりすることができるようにした。



## (2) N I E 研修の実施

### ① 生徒対象 N I E 研修

令和 7 年 5 月 28 日 (水) 5 限 (3 年生)・6 限 (1・2 年生)

講師 木村 隆 様 (新潟日报社 読者局 N I E チーフアドバイザー)

演題 「キーワードを見つける新聞の読み方」

昨年度 1 年間、N I E 活動を実施してきたが、まだ新聞自体に高い壁を感じている生徒が多い。新聞の読み方の導入編のような研修の機会を設けることで、新聞に対するハードルを下げ、新聞を活用するモチベーションをあげることをねらいとした。木村様からは、生徒にわかりやすい例を交えた記事の構造についての話や、見出しに○×をつけて短時間で要点を押さえて新聞を読む体験などの講演をしていただき、生徒は新聞を身近に感じることができた。



### ② 職員対象 N I E 研修

令和 7 年 7 月 1 日 (火)

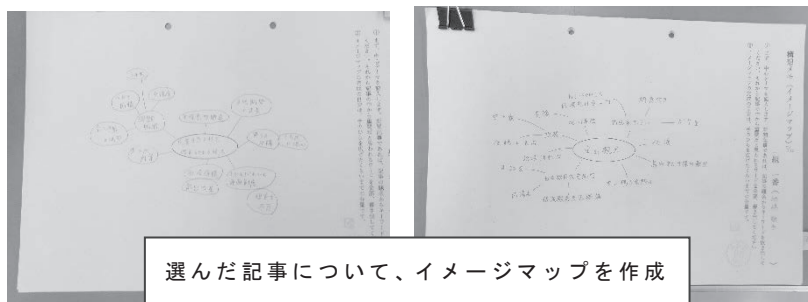
講師 蟻塚 宰子 様 (新発田商業高校教諭 新潟県 N I E アドバイザー)

演題 「デジタルスクラップからポスター作りにおける指導について」

昨年度からの本校の N I E 活動を振り返り、今年度の活動におけるアドバイスをいただいた。

## (3) N I E 学習の実践

R 6 年度：毎週月曜日の 6 限終了後、15 分程度の N I E タイムを設定。あらかじめ地域に関する 3 つの記事を選んでロイロノートで配信し、生徒それぞれがそのうちの 1 つの記事について、キーワードを抜き出したイメージマップを作成した。新聞から地域に関するキーワードを見つけ、蓄積し、活用しに備える活動。3 つの記事から選ぶことができるので、生徒も気負いなく活動できた。新聞記事を読むことに慣れ、自然と地域の出来事を知ることができた。



R7年度:まとまった活動時間を確保するため、各クラスのLHRで実施した。生徒それぞれが、興味のある記事を集め(デジタルスクラップ)、記事から学んだことから、自分の将来に生かせるテーマで意見をまとめ(まとめのポスター)、発表する活動を実施した。

#### (4) 各教科による新聞を使った授業実践

本校でのNIE活動は、全校体制で実施している。教員それぞれが新聞を使った授業を実践し、簡単なレポートを共有フォルダに提出した。他教科の実践でも、今後の授業計画の参考とすることができた。

#### (5) 教科連携授業の実施

昨年度に引き続き、新聞記事を用いて、異なる教科の教員で連携した授業を展開。公開授業(令和7年11月4日)にて実施。

### 3 実践例

#### (1) NIE学習 ～デジタルスクラップ⇒ポスター作り⇒発表～

授業計画(全5時間)

2時間	デジタルスクラップ(4つ以上作成) <ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスのNIEコーナーの新聞から、興味のある記事や自分の将来に生かせる記事を見つけ、写真を撮る。</li> <li>記事をロイロノートに取り込み、それぞれに①新聞名・日にち②選んだ理由③記事の内容④記事から学んだこと⑤自分事としての感想・意見を入力し提出する。</li> </ul>
2時間	まとめのポスター作り <ul style="list-style-type: none"> <li>集めた記事を各自のテーマに沿って、ロイロノート等でまとめる。</li> <li>テーマは、自分の将来に生かせる内容とする。(希望の進路、就きたい職業、地域貢献、興味関心のあること、マイプロのテーマ など)</li> <li>①テーマ②自分のクラス名前③記事から学んだこと④補足して調べたこと⑤まとめの感想や意見を入力し提出する。</li> </ul>
1時間	クラス発表(1学年は11月4日の公開授業で実施) <ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとにタブレットを使って、1人ずつポスター発表。</li> <li>班メンバーの発表についてそれぞれ意見交換し、発表者はそれを受けて、さらに感想をまとめる。</li> <li>クラスで数名、クラス全体の前で発表する。</li> </ul>

一人ひとりが新聞をめくるところから始まった。初めは宣伝広告に興味を奪われていた生徒もいたが、次第に「このニュース知ってる」など、興味を持った話題を探ることが出来るようになった。普段、新聞は読んでいなくても耳に入る大きな話題や、興味関心、自分の進路に生かせる記事を集める生徒が多くいた。個人差はあるが、社会の出来事を、自分の将来に生かす視点を持つことができた。



## (2) 教科連携授業の実施

### ① 数学×地歴公民科 (2 学年)

<ア>テーマ「データの分析で読み解く社会と地理」

<イ>目的

新聞記事で取り上げられた社会問題について、日本や他国の考えや分析、その根拠を様々な視点から理解しようとする。さらに生徒自身の考えや分析を深め、探究しようとする姿勢を持つ。

<ウ>授業の展開

- 「最も暑かった今年の夏」「気候変動は史上最大の詐欺」という対立する視点の二つの記事から、温暖化が進行している見方と、気候変動を否定する見方が存在することを解説する。

本時の課題 「温暖化は進行しているかを分析しよう」

- 国や人によって様々な捉え方があるという問題から、客観的な分析の必要性を理解させる。
- 温暖化の定義を確認し、日本とアメリカの年間平均気温データを用いて散布図を作成させる。右肩上がりから温暖化は進行している傾向が読み取れる。
- 年と気温それぞれの偏差を計算させ、相関係数を算出させる。相関係数の値が正になったことを確認し、「相関係数が正であること」が温暖化の客観的な進行の度合いを示すことができる解説する。
- 数学的分析(数値や度合い)を用いることで客観性と説得力のある説明が可能になることを強調する。
- 新聞記事で社会問題を知り、数学の知識を活用して深く客観的に分析することの良さを生徒に問いかけ、本時の学習をまとめる。



### ★生徒の感想

・社会科と数学につながりがあるとは思わなかったので、面白かった。他の教科でもやってみたい。

### ★11/4 研究発表会での協議より

- ・社会に広まっている情報や言説が事実に基づいているかどうかを検証する、ファクトチェックは、さまざまな情報があふれる現代にはとても重要だ。
- ・情報を一面的に理解するのではなく、客観的に理解するためにデータに基づく分析を大切にしたい点がとても良かった。

## ②家庭科×商業科（3学年）

〈ア〉テーマ「家庭科VS商業 フードロスについて考える」

〈イ〉目的

食品ロスの問題点と現状を理解するとともに、視点を変えた考え方を知り、自分にできることを考える。

〈ウ〉授業の展開

○食品ロスについて学ぶ。

・クイズを交えながら、「食品ロスとは」「食品ロスの内容」「一人当たりの廃棄量」「問題点」「経済損失」などについて知る。

・新聞記事（日本農業新聞 2025/6/28）を用いて、「食品ロスの現状と目標」について確認し、食品ロスが削減されつつあることを知る。

○食品ロス削減にむけて、自分にできることを考える。

・4～5人の班になり、3つ以上具体的な策を考え、ロイロノートで提出する。

・いくつかの班が発表し、具体的な策を共有する。

・新聞に掲載された、食品ロス削減の取り組みについて知る。

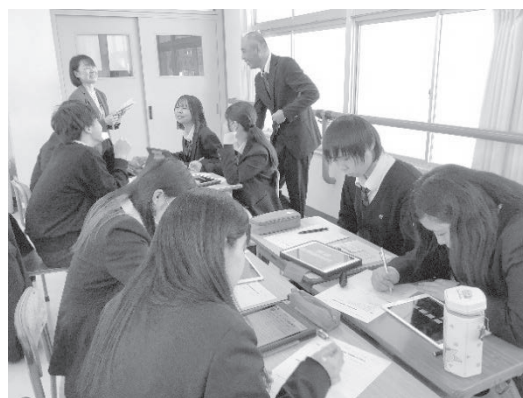
○食品ロスについてビジネスの視点での考え方について知る

・新聞記事（日経新聞 2024/4/20）を用いて、ビジネスにおける機会損失（トレードオフ）について理解する。マーケティング戦略における機会損失に対する企業の取り組みを知る。

・マーケティング戦略と食品ロス削減について班ごとに話し合い、当たり前と考えられていることに対しても相反する考え方があることを知る。

○家庭科×商業科の授業を受けて、自分の考えをまとめ、再度自分にできることを考える。

・ビジネスの視点を加味しても、食品ロス削減は必要だと再確認する。



### ★生徒の感想

・最近のコンビニやスーパーが値引き販売をして食品ロス削減に貢献している。自分も少しでも貢献できるようにしたい。

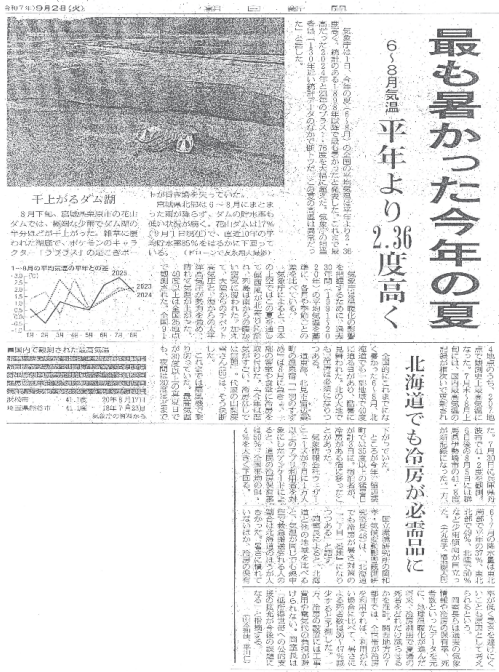
・新聞を利用し、身近にあることが話題なのでとても理解しやすかった。

### ★11/4 研究発表会での協議より

・コンビニやスーパーを例にしたことから、生徒が学びを身近に感じ、学ぶことを楽しんでおり、もっと知りたいという喜びを持っていた。

◎教科連携授業で使用した新聞記事  
数学×地歴公民科（2 学年）

朝日新聞 令和 7 年 9 月 2 日



**最も暑かった今年の夏**  
6月8日高温 平年より2.36度高く

8月下旬、国産%産出の花山  
ダムでは、乾燥化が進む中、  
ダム湖水位は平年より1.7m  
も低下している。ダム湖水位の  
低下は、ダム湖周辺の生態系に  
悪影響を及ぼしている。また、  
ダム湖水位の低下は、ダム湖  
周辺の生態系に悪影響を及ぼ  
している。また、ダム湖水位の  
低下は、ダム湖周辺の生態系  
に悪影響を及ぼしている。

家庭科×商業科（3 学年）

日本経済新聞 令和 6 年 4 月 20 日

① **食品ロス削減へ値引き**  
セブン、本部主導で推奨

セブンイレブンが、店舗向けに、賞味期限が近づいた食品ロス削減を目的として、本部主導で値引きを推奨する。賞味期限が近づいた食品ロス削減を目的として、本部主導で値引きを推奨する。賞味期限が近づいた食品ロス削減を目的として、本部主導で値引きを推奨する。

②

③

朝日新聞 令和 7 年 9 月 25 日



**トランプ節 世界に自説**  
気候変動は史上最大の詐欺

トランプ氏は、気候変動を「史上最大の詐欺」と断言し、世界に自説を述べた。トランプ氏は、気候変動を「史上最大の詐欺」と断言し、世界に自説を述べた。トランプ氏は、気候変動を「史上最大の詐欺」と断言し、世界に自説を述べた。

農業新聞 令和 7 年 6 月 28 日

**商慣習見直し 持ち帰り拡大**  
食ロス200年度から半減

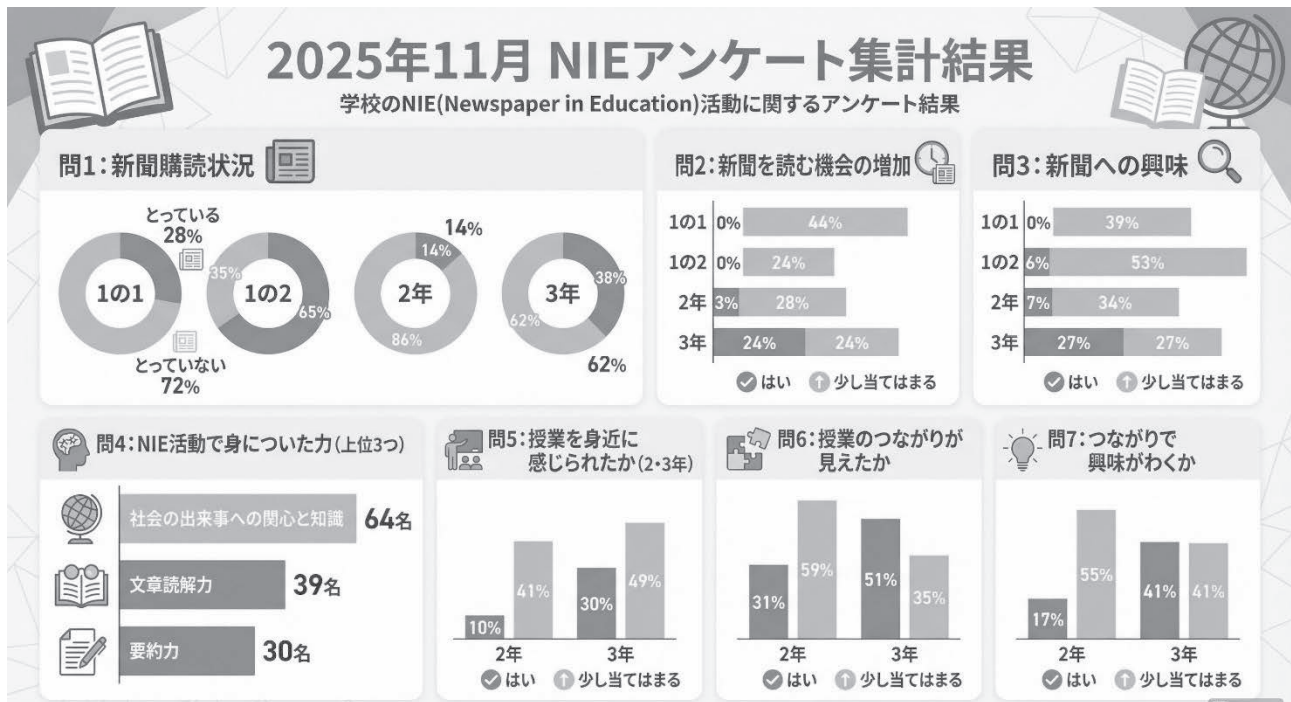
食ロス量は減少傾向にある

年度	食ロス量 (t)
2000	900
12	850
13	800
14	750
15	700
16	650
17	600
18	550
19	500
20	450
21	400
22	350
23	300
30	250

政府目標 435万t (2000年度比56%減)

23年度

## 4 成果



生徒へのアンケート結果から、家庭で新聞を購読していない生徒が多い現状において、学校で計画的に新聞に触れるNIEの取組は、生徒の学びを支える重要な役割を果たしていることが読み取れる。特に、3年生においては、新聞を読む機会の増加や新聞への興味・関心の高まりが見え、学年進行に伴う学習効果の蓄積がうかがえる。

また、昨年度のイメージマップを作成する活動や、今年度実施した新潟日報の木村様を講師とした生徒向けNIE研修を通して、新聞自体や新聞記事を読むことへのハードルが下がったと感じている。そして、生徒自身が新聞をひろげ、多くの記事の中から自分の興味関心に応じた記事を集めてスクラップし、まとめた活動は、普段インターネットからの実は偏った情報の波にさらされているであろう生徒には、新聞の一覧性や信頼性を感じられる有益な活動であったと考える。NIE活動を通して、「社会の出来事への関心と知識」「文章読解力」「要約力」が身に付いたと感じている生徒が多く、新聞を活用した学習が思考力・判断力・表現力の育成に役立っていることが分かった。また、高学年になるにつれて「自ら進んで学ぼうとする力」や「問題解決能力」を挙げる生徒が増えており、主体的な学びへの発展も確認できる。

新聞記事を教材として活用した教科連携授業では、教科内容と実社会との関連を意識しやすくなり、授業を身近に感じる生徒が多い結果となった。さらに、教科と教科のつながりが見えることで、学習内容への興味や理解が深まると回答した生徒が多く、この取り組みが有益であったと言える。

このNIEでの活動を大事にし、生徒が社会の問題に関心を持ち、広い視野で物事をとらえることができるよう、これからも各教科で、または教科間で連携し、できる範囲での実践を続けていきたい。

(本間 由紀)

## 担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

### 1 担当 NIE アドバイザー 新潟県立新発田商業高等学校 教諭 蟻塚 幸子



新潟県立中条高等学校では、「つなげて考える力の育成」を主題に、新聞記事を活用した教科連携授業の公開を行いました。教科の学びと社会、自身の未来を結びつけ、思考を深めていく実践でした。

1 学年ではデジタルスクラップを作成する過程で、複数の記事を集め、感想としてまとめながら自分事として捉え、考えを深める姿が印象に残りました。2 学年では地歴公民科と数学科が連携。温暖化をテーマに、記事の読解だけでなくデータに基づき判断をするという方法に工夫を感じました。3 学年は生活者と企業という異なる視点から議論を展開。多角的に課題を捉える中で、生徒から「もっと知りたい」という意欲が溢れ、次々と発言が続く活気ある授業となりました。

教科連携により多面的な見方や「なぜ」と問う探究心を育み、つなげて考える力の育成の大切さを改めて感じる機会となり、生徒の主体的な学びを引き出す心に残る実践でした。

### 2 担当新聞・通信社

#### 朝日新聞社新潟総局長 佐藤 徳仁



2 学年と 3 学年の取り組みは、新聞記事を題材に教科を横断して気候変動や食品ロスの問題について考える極めて意欲的な授業でした。地球温暖化の事実関係をめぐって対立する二つの記事を取り上げた 2 学年では、事前の授業で学習した相関係数などを使い、科学的にアプローチする意義深いファクトチェックとなりました。これからのメディアのあり方を含め、望ましい未来像の描き方のヒントを与えてくれるものになったと思います。

#### 共同通信社新潟支局長 小熊 宏尚



トランプ米大統領の「地球温暖化はでっち上げ」発言という、極めて今日的で厄介な問題に対し、正面から取り組んだ中条高校の皆さんに敬意を表したい。「偉大な国のトップは何を言っても許される」という思い上がりがあるトランプ氏の数々の問題発言の根底にあるが、こうした発言を一蹴できるか否かが決まる最初の分かれ道は学校教育での学びだろう。フェイクがまん延する世界を生き抜くため、これからもリテラシーを高める取り組みに期待する。